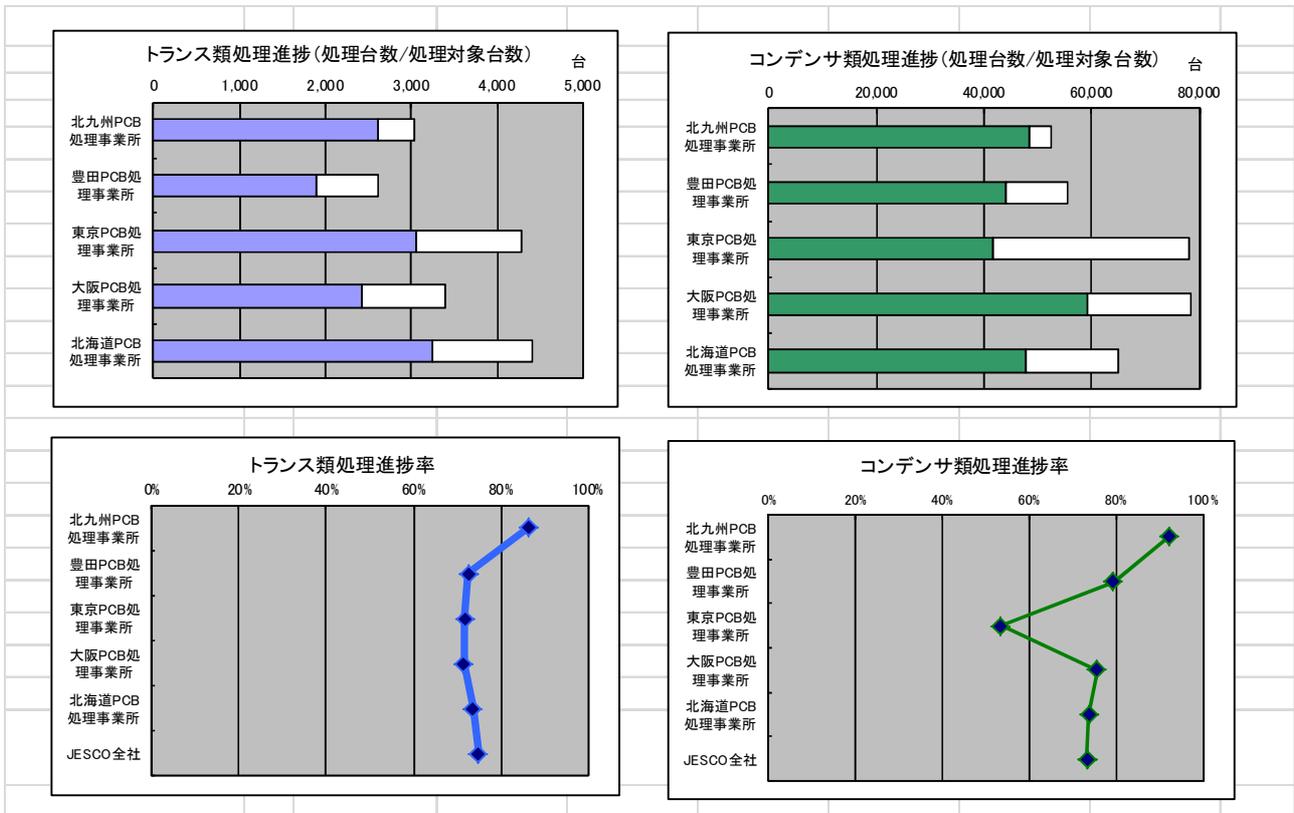


平成27年度における各 PCB 処理事業の進捗状況について

1. 概況

トランス・コンデンサの処理については、おおむね順調に操業を行っており、処理の進捗率は、平成 28 年 2 月末現在、トランス類 75%（対前年度末 4%増）、コンデンサ類 73%（対前年度末 8%増）となっている。

安定器等・汚染物の処理については、すでに操業を開始していた北九州 PCB 処理事業所（プラズマ溶融分解設備 1 号機：平成 21 年 7 月、2 号機：平成 24 年 1 月操業開始）に引き続き、北海道 PCB 処理事業所の増設事業が平成 25 年 9 月より操業を開始している。



(1) 北九州 PCB 処理事業

平成 27 年度においては、当初は順調に処理が進んだが、10 月に液処理系の排気中に協定値を超えるベンゼンが含まれていたことが明らかとなり、11 月以降は自主操業停止している。処理対象推計台数に対する進捗率はトランスが 86%、コンデンサが 92%。

JESCO に登録されているものについては、大型トランスを除き、設備能力的には、平成 29 年度に処理が完了する見込みである。大型トランスは本年 2 月末時点で約 100 台の登録が残っており、施設の有効活用を行い、早期に処理を進める予定である。今後は、PCB 特別措置法に基づき都道府県知事等へ届出されているものの JESCO に登録されていないもの等について 17 県と連携して総ざらいを行うこととしている。

安定器についても、昨年 11 月以降に自主操業停止しており、処理対象個数に対する進捗率は約 9 割となっている。従前の北九州事業エリアについては、その他物を除き登録されているものが来年度に概ね処理が完了する見込みである。

また、PCB 廃棄物処理基本計画の変更を踏まえ、平成 27 年度から豊田エリアに保管されている車載トランスの一部、東京エリアに保管されているコンデンサ類の一部、大阪・豊田事業エリアに保管されている安定器等・汚染物の処理を開始した。

(2) 豊田 PCB 処理事業

平成 27 年度は順調に処理を進め、進捗率はトランスが 73%、コンデンサが 79%。

作業環境上の問題から処理を見合わせていた特殊形状コンデンサ、漏えいコンデンサ及び保管容器（以下「特殊形状コンデンサ等」という。）については、処理体制を整備すべく平成 25 年度に改造を行い、今年度は 1,330 台処理を実施した。なお、特殊形状コンデンサ等のうち大型のものに対応するため、平成 26、27 年度の 2 ヶ年計画で、大型／車載トランス解体エリアの改造工事を実施した。

また、PCB 廃棄物処理基本計画の変更を踏まえ、大阪事業エリアに保管されているポリプロピレン等を使用したコンデンサの一部を 2 月より処理開始している。

(3) 東京 PCB 処理事業

平成 27 年度は、6 月に発生した情報システムのトラブルの影響等により契約業務が滞ったこともあったが、概ね順調に操業を行っており、進捗率はトランスが 72%、コンデンサが 53%。

PCB 廃棄物処理基本計画の変更を踏まえ、本度から北九州、大阪 PCB 処理事業所から発生する廃粉末活性炭の一部について受入処理を開始した。また、豊田事業エリアに保管されている車載トランスについても一部の処理を行っている。

(4) 大阪 PCB 処理事業

平成 27 年度は順調に処理を進め、進捗率はトランスが 71%、コンデンサが 76%。

運転廃棄物については、引き続き無害化認定処理施設を活用した処理を進めている他、東京、北九州各 PCB 処理施設での廃粉末活性炭、防護具類の処理を開始した。

また、今年度から豊田事業エリアに保管されている車載トランス及び特殊コンデンサの一部を処理しており、北海道事業エリアに保管されている特殊コンデンサの一部についても、来年度から処理を行う予定。

(5) 北海道 PCB 処理事業

平成 27 年度も順調に処理を進め、進捗率はトランスが 74%、コンデンサが 74%。

作業環境上の問題から処理を見合わせている特殊コンデンサ・漏えいコンデンサ等については、早期に処理が終了する予定の小型トランス処理ラインの一部を平成 26、27 年度の 2 ヶ年計画で改造し、平成 28 年度から処理を行う予定。

安定器等・汚染物を処理する増設施設については、平成 25 年 9 月に操業を開始し、順調に処理を進めており、平成 27 年度は 2 月までに 736 トンの処理を実施している。また、PCB 廃棄物処理基本計画の変更を踏まえ、平成 28 年度から東京事業エリアに保管されている安定器等・汚染物を処理する予定である。

表1 平成28年2月末時点での各PCB処理事業の処理の進捗率

トランス類	累計処理台数	処理対象台数	処理進捗率	前年度末比	処理開始時期
北九州PCB処理事業所	2,621	3,038	86.3%	+2.0ポイント	平成16年12月
豊田PCB処理事業所	1,897	2,614	72.6%	+3.5ポイント	平成17年9月
東京PCB処理事業所	3,063	4,275	71.6%	+6.7ポイント	平成17年11月
大阪PCB処理事業所	2,425	3,395	71.4%	+2.7ポイント	平成18年10月
北海道PCB処理事業所	3,244	4,406	73.6%	+3.5ポイント	平成20年5月
JESCO全社	13,250	17,728	74.7%	+3.9ポイント	

コンデンサ類	累計処理台数	処理対象台数	処理進捗率	前年度末比	処理開始時期
北九州PCB処理事業所	48,382	52,623	91.9%	+5.8ポイント	平成16年12月
豊田PCB処理事業所	43,956	55,567	79.1%	+10.1ポイント	平成17年9月
東京PCB処理事業所	41,672	77,978	53.4%	+7.8ポイント	平成17年11月
大阪PCB処理事業所	59,155	78,350	75.5%	+6.6ポイント	平成18年10月
北海道PCB処理事業所	47,687	64,851	73.5%	+8.1ポイント	平成20年5月
JESCO全社	240,852	329,369	73.1%	+7.7ポイント	

PCB分解量	累計処理済PCB(t)	処理対象量(t)	処理進捗率	前年度末比	処理開始時期
北九州PCB処理事業所	1,932.1	2,251	85.8%	+6.2ポイント	平成16年12月
豊田PCB処理事業所	1,714.7	3,817	44.9%	+4.6ポイント	平成17年9月
東京PCB処理事業所	2,843.0	4,491	63.3%	+8.2ポイント	平成17年11月
大阪PCB処理事業所	2,017.1	4,030	50.1%	+3.8ポイント	平成18年10月
北海道PCB処理事業所	2,033.8	3,844	52.9%	+5.7ポイント	平成20年5月
JESCO全社	10,540.4	18,433	57.2%	+5.7ポイント	

※累計処理台数や分解量は、中間処理ベース（マニフェスト単位）。

※連結コンデンサなどは、分割する前のものを1台としている。

※処理対象台数は、環境省「今後のPCB廃棄物の適正処理推進について」(H24.8)表2 処理対象機器の推計台数による。

※PCB分解量の処理対象量は、JESCO 処理施設発注時に見積り、特記仕様書に記載した推計値。

図1 平成28年2月時点各PCB処理事業の処理進捗率

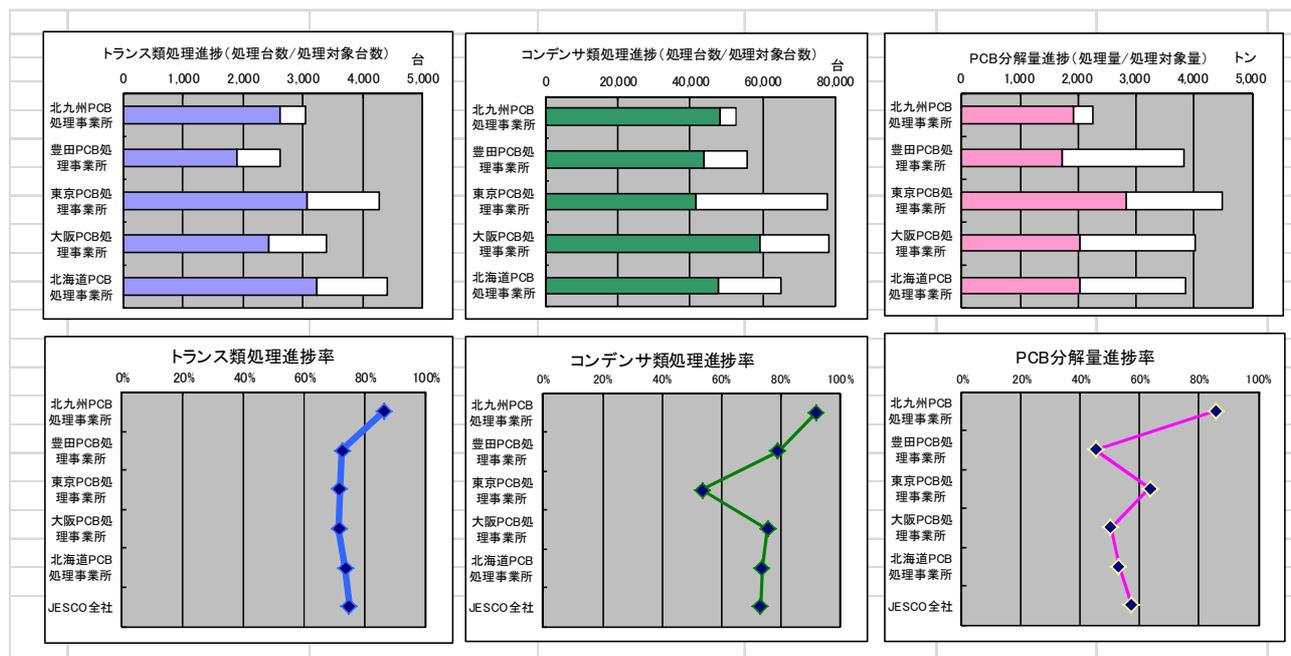


表2 各 PCB 処理事業の年度別処理実績

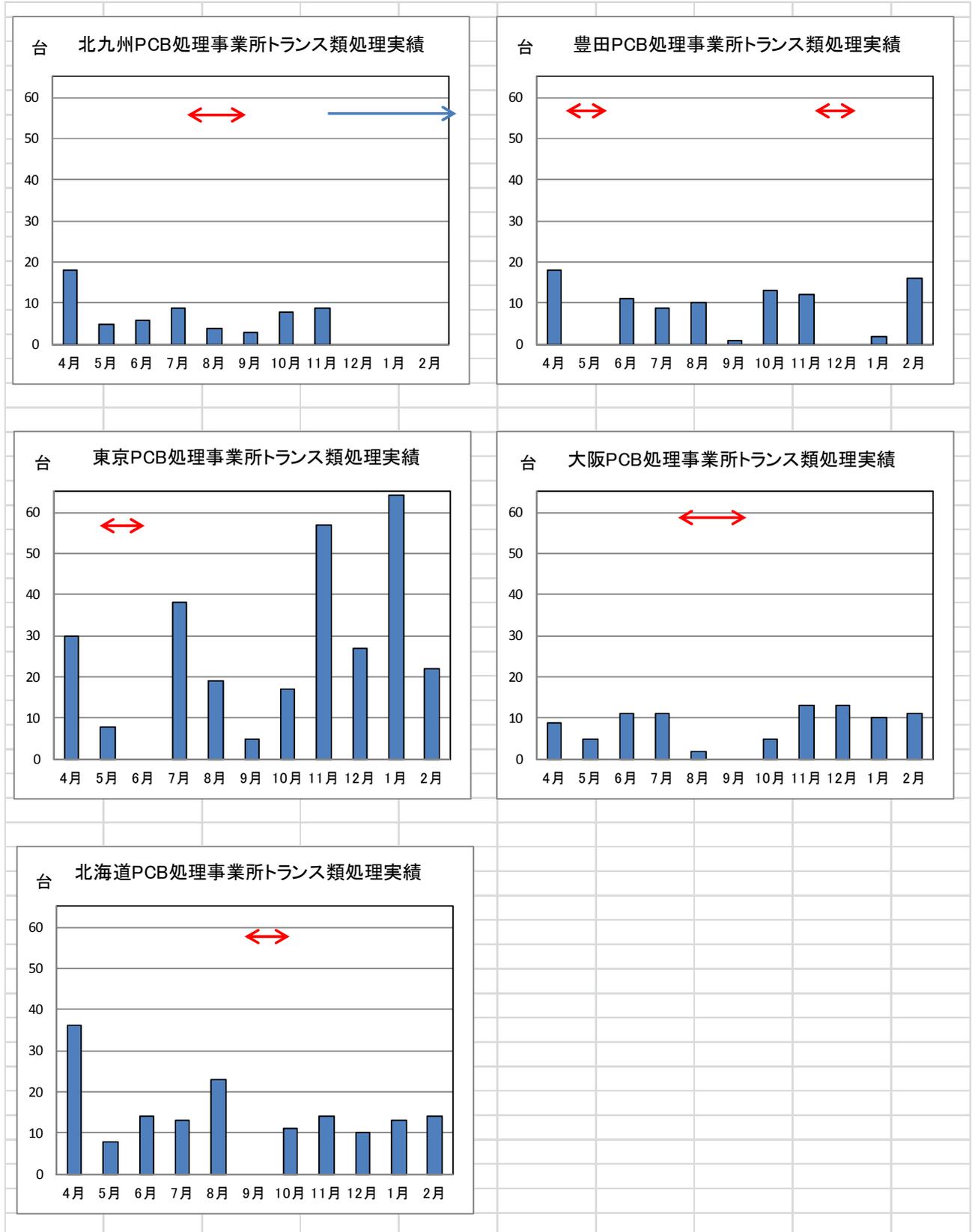
事業	廃棄物の種類	単位	年度											合計	(内試運転等)	
			16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26			27 (-2)
北九州	トランス類	台	50	239	241	214	178	258	303	339	312	279	146	62	2,621	(23)
	コンデンサ類	台	200	755	1,038	1,595	1,364	4,053	6,769	8,196	7,887	7,750	5,698	3,077	48,382	(394)
	PCB油類	本	13	63	38	22	40	75	116	248	425	582	706	228	2,556	(46)
	安定器等・汚染物	t						31.2	144.3	301.6	497.7	613.2	729.6	468.6	2,786.2	(39.1)
	PCB分解量	t	9.5	55.8	67.7	78.6	67.6	151.0	249.3	293.6	292.3	297.7	228.8	140.3	1,932.1	(5.2)
豊田	トランス類	台		49	77	191	304	286	187	142	220	201	148	92	1,897	(14)
	コンデンサ類	台		1,185	1,605	2,289	3,836	4,753	3,770	3,910	5,135	5,971	5,873	5,629	43,956	(588)
	PCB油類	本		33	1	15	30	49	66	38	81	146	219	373	1,051	(33)
	PCB分解量	t		31.5	63.7	115.8	186.5	199.4	159.9	144.1	217.9	207.5	214.3	174.1	1,714.7	(4.6)
東京	トランス類	台		122	0	86	238	268	357	415	450	512	328	287	3,063	(31)
	コンデンサ類	台		573	46	687	2,256	3,395	4,823	4,820	5,902	6,331	6,722	6,117	41,672	(452)
	PCB油類	本		75	0	69	233	447	414	621	700	499	359	188	3,605	(17)
	PCB分解量	t		30.7	26.0	52.4	157.8	272.9	330.7	342.9	426.4	420.3	412.8	370.1	2,843.0	(1.9)
大阪	トランス類	台			76	290	289	404	376	297	199	279	125	90	2,425	(20)
	コンデンサ類	台			1,941	4,875	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	8,636	7,091	5,202	59,155	(383)
	PCB油類	本			52	53	87	85	84	197	259	293	119	117	1,346	(32)
	PCB分解量	t			33.9	165.7	181.9	236.5	205.3	272.8	293.3	278.0	195.9	153.9	2,017.1	(14.2)
北海道	トランス類	台				19	138	350	632	681	688	395	185	156	3,244	(19)
	コンデンサ類	台				224	1,822	4,803	6,630	6,539	7,151	7,748	7,535	5,235	47,687	(224)
	PCB油類	本				47	23	2	34	17	68	177	23	128	519	(47)
	安定器等・汚染物	t										352.5	642.3	735.7	1,730.5	(52)
	PCB分解量	t				11.6	65.0	194.9	261.8	294.5	350.3	353.2	285.2	217.2	2,033.8	(11.6)
合計	トランス類	台	50	410	394	800	1,147	1,566	1,855	1,874	1,869	1,666	932	687	13,250	(107)
	コンデンサ類	台	200	2,513	4,630	9,670	14,414	22,696	28,549	29,617	33,948	36,436	32,919	25,260	240,852	(2,041)
	PCB油類	本	13	171	91	206	413	658	714	1,121	1,533	1,697	1,426	1,034	9,077	(175)
	安定器等・汚染物	t	0	0	0	0	0	10.4	144.3	301.6	497.7	965.7	1371.9	1204.2	4,495.9	0
	PCB分解量	t	9.3	117.9	191.3	424.0	658.8	1054.7	1207.0	1347.9	1580.2	1556.7	1337.0	1055.6	10,540.4	(37.5)

(注)・処理実績は中間処理完了時点(マニフェスト単位)のもの。27年度は28年2月までの処理実績。

- ・()は試運転時に処理したもの。
- ・四捨五入により合計値があわない場合がある。
- ・連結コンデンサなどは、分割する前のものを1台としている。

図2 平成27年度月別処理実績

○ トランス類



↔ : 定期点検等

→ : 北九州 PCB 処理事業所操業停止

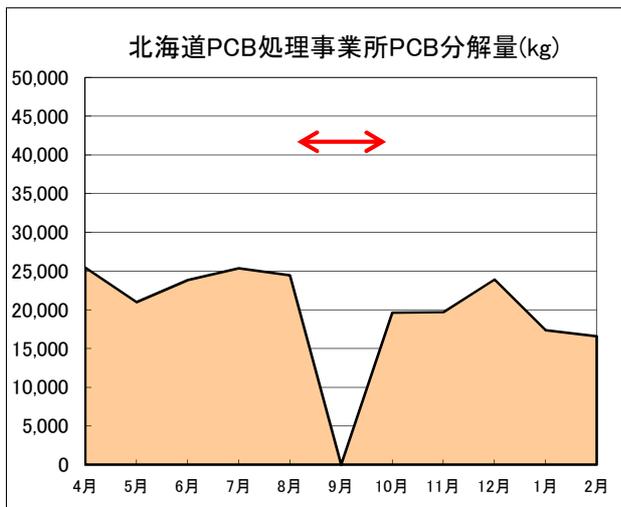
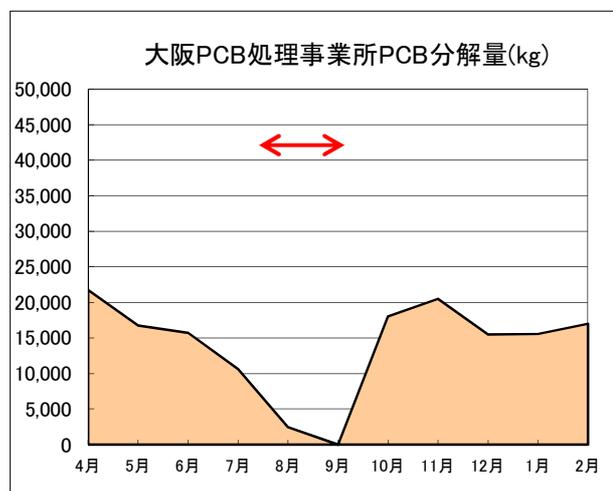
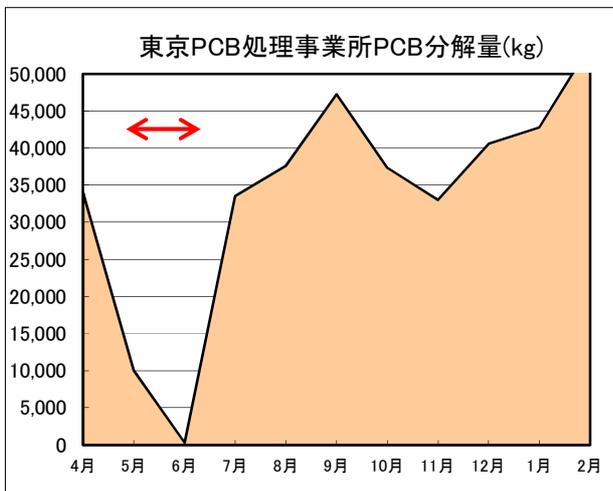
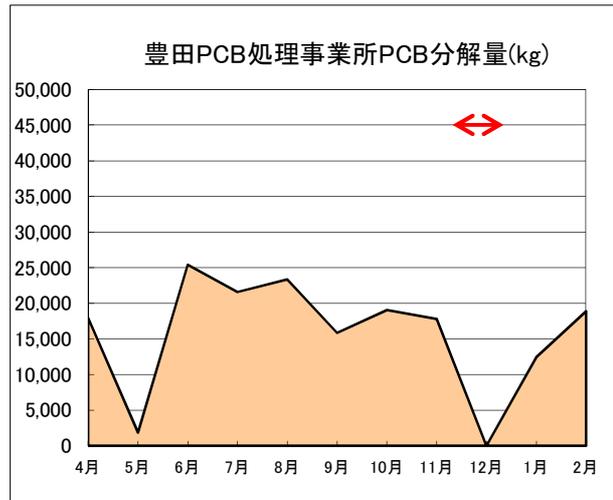
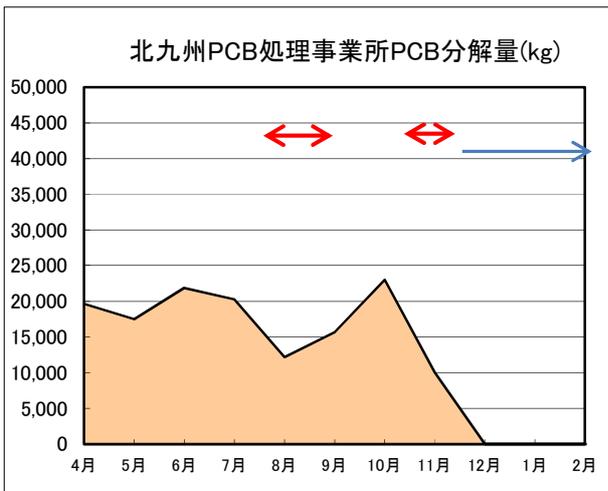
○ コンデンサ類



↔ : 定期点検等

→ : 北九州 PCB 処理事業所操業停止

○ PCB 分解量



↔ : 定期点検等

→ : 北九州 PCB 処理事業所操業停止

2. 環境影響

当社の各PCB処理事業所では、それぞれの事業における立地状況等に応じた排出源及び周辺環境のモニタリングを行っている。一部の測定項目についてはオンラインモニタリングも実施しながら、常に管理目標値を超えないように監視している。

平成27年度のモニタリング結果は表3のとおりであり、各PCB処理事業所とも自主管理目標値等を下回っている。

表3 各PCB処理事業所における平成27年度の排出源及び周辺環境のモニタリング結果

	要素	項目	北九州	豊田	東京	大阪	北海道
排出源	排気	PCB	○	○	○	○	○
		ダイオキシン類	○	○	○	○	○
		ベンゼン	○	○	-	○	○
		SOx	○	-	-	-	○
		NOx	○	○	-	○	○
		HCL	○	-	-	○	○
		ばいじん	○	○	-	○	○
		イソプロピルアルコール	-	-	○	-	-
	排水	PCB	○	○	○	○	○
		ダイオキシン類	-	○	○	○	○
		COD	-	○	-	-	○
		全窒素	-	○	○	-	○
		n-ヘキサン抽出物質	-	○	○	-	○
		全燐	-	○	○	-	○
		pH	-	○	○	-	○
		SS	-	○	○	-	○
		BOD	-	○	○	-	○
		その他の項目	-	-	○	-	-
	雨水	PCB	○	-	○	○	-
		ダイオキシン類	○	-	○	○	-
	悪臭	アセトアルデヒド	○	○	-	○	○
		トルエン	○	○	-	○	○
		キシレン	○	○	-	-	○
		プロピオン酸	-	-	-	-	○
		ノルマル酪酸	-	-	-	-	○
		臭気指数	-	-	-	○	-
		許容臭気排出強度	-	-	-	○	-
	騒音	騒音	○	○	-	○	○
	振動	振動	-	○	-	○	○
	周辺環境	大気	PCB	○	○	○	○
ダイオキシン類			○	○	○	○	○
ベンゼン			○	○	-	○	○
水質		PCB	○	-	-	-	○
		ダイオキシン類	○	-	-	-	○
地下水		PCB	○	○	-	-	-
		ダイオキシン類	○	○	-	-	-
土壌		PCB	○	○	-	-	-
		ダイオキシン類	○	○	-	-	-
底質		PCB	○	-	-	-	○
		ダイオキシン類	○	-	-	-	○
生物		PCB	○	-	-	-	-
		ダイオキシン類	○	-	-	-	-

○：自主管理目標値等の範囲内

—：測定対象外

3. 作業安全衛生

当社のPCB廃棄物処理施設では、以下の作業安全衛生対策を行っている。

- ① 作業環境管理のための設備側の対策として、局所排気等の換気システムの設置、作業環境モニタリングの実施
- ② 作業管理による対応として、管理区域レベルやその作業に応じた保護具の着用、作業時間の制限等の作業管理
- ③ 作業従事者の健康管理として、労働安全衛生法に基づく特殊健康診断の実施、定期的な血中PCB及びダイオキシン類濃度の測定、健康管理の目安となる生物学的許容値との比較による管理

各事業所における平成27年度の作業環境の状況を表4に示す。各事業所において、作業環境濃度の高いエリアについて作業環境改善のための局所排気装置の新・増設、室温管理、定期的な清掃などの各種対策を講じることにより、作業環境は概ね維持・改善している。なお、各事業所において特に濃度の高いエリアの大部分は、常時作業者が入室して作業するエリアではないが、これらのエリアに作業が一時的に入室する際には、入室時間の制限や保護具類の装着を強化すること等により、作業者のPCBの曝露防止を図っている。

表4 各PCB処理事業所における平成27年度の作業環境の状況（平成28年2月現在）

項目	管理目標値	北九州 1期施設	北九州 2期施設	豊田	東京	大阪	北海道 当初施設	北海道 増設施設	
作業環境	PCB	0.01 mg/m ³	○	○	コンデンサ 1階素子解 体エリア等 で超過(0.09 ～ 0.19mg/m ³)	コンデンサ 解体室等で 超過(0.012 ～ 2.2mg/m ³)	大型解体室 で超過 (0.013mg/ m ³)	○	○
	DXN類	2.5 pg-TEQ/m ³	粗解体室、 解体分別 室、仕分室 で超過(3.8 ～ 11pg-TEQ/ m ³)	特殊解体室 (解体ファ ース)で超過 (3.0 ～ 16pg-TEQ/ m ³)	コンデンサ 4階素子裁 断エリア等 で超過(106 ～ 202pg-TEQ /m ³)	コンデンサ 解体室等で 超過(2.9～ 240pg-TEQ /m ³)	小型・大型 解体室等で 超過(2.8～ 28pg-TEQ/ m ³)	大型/車載ト ランス解体 エリアで超 過(4.5～ 17pg-TEQ/ m ³)	○

○：管理目標値未満である項目

次に、作業従事者の血中PCB濃度の状況について、平成18～26年度における対象者の測定結果の5%～95%の範囲を箱で示したグラフを図3に示す¹。作業環境の改善が図られたこと、適切な作業管理（保護具の着用の徹底や配置換え等）により曝露低減が図られたこと等により、平成21年度以降、上95%値は低下傾向となっており、平成23年度以降は、全ての作業従事者において、健康管理の目安となる生物学的許容値（25ng/g）未満となっている。なお、血中PCB濃度が相対的に高い作業従事者に対しては、保護具の着用状況を個別に確認・指導する、専門家による診察を受ける等のフォローアップとともに、必要に応じて、曝露の少ない作業班への配置換え等を行い、血中PCB濃度は重点的に監視している。

¹ 作業環境改善や作業管理の効果をより適切に把握する観点から、各年度に測定した結果のうち、就業前に測定したものを除外した。引き続き、過年度のデータの整理を行っていくこととしている。

血中PCB濃度 ng/g(5%-95%)

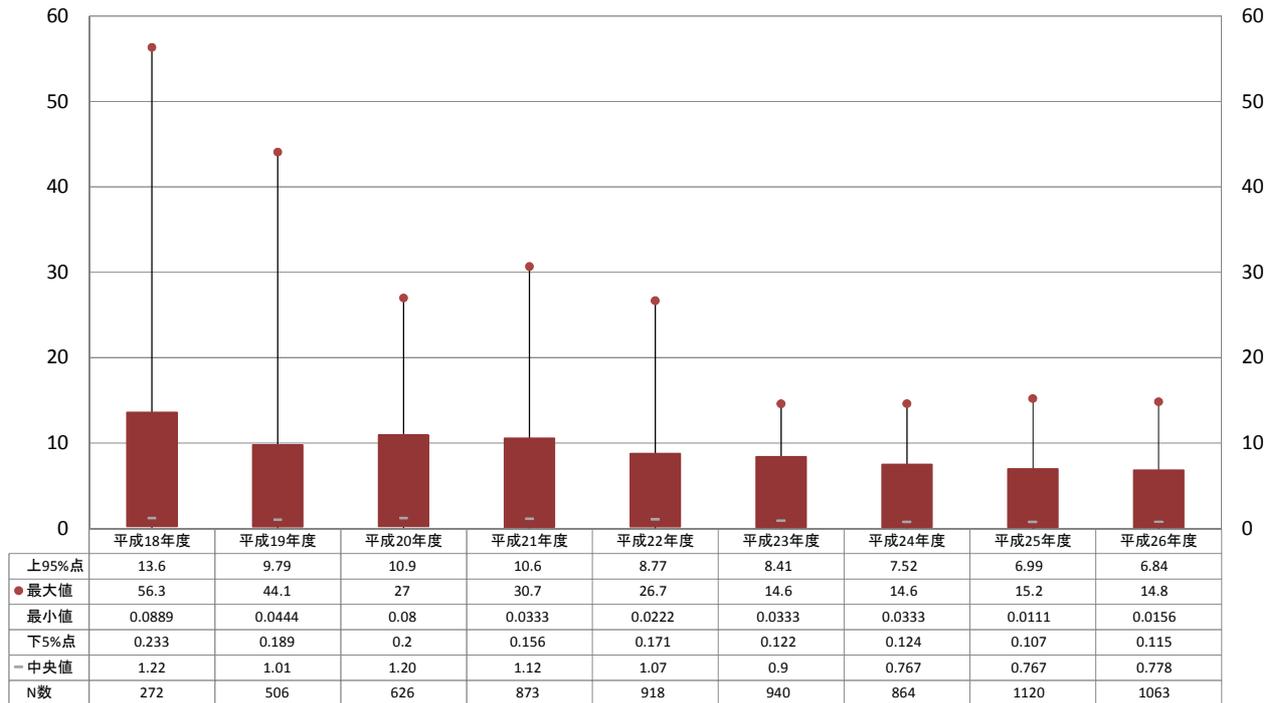


図3 作業従事者の血中PCB濃度分布（全事業所）

JESCOの全事業所における休業災害（休業1日以上の労働災害）は平成18年度以降、計10件発生し、休業日数は延べ297日となっている。平成26年度の度数率（100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数）や強度率（1,000延べ実労働時間当たりの労働損失日数）は、それぞれ1.06、0.01と、全国的な水準（度数率1.66、強度率0.09）と比較して低い状態を維持している。平成27年度には、工事会社職員の処理棟内休業災害（工事用部材（鉄板）の荷崩れによる踵部骨折）及びJESCO職員の処理棟外休業災害（歩道での転倒）が発生しているものの、運転会社の休業災害は発生していない。

4. 主なトラブル等

トラブルの発生状況、過去のトラブル対応状況については別紙1、2に示した。

5. ヒヤリハットに関する取組

事故や施設のトラブル、労働災害等を未然に防止するため、各PCB処理事業所においてヒヤリハット活動を実施している。

平成27年度中(2月末まで)の各事業所におけるヒヤリハット報告件数は表6のとおりである。

なお、各PCB処理事業所では、ヒヤリハットの報告や提案に基づく設備・作業等の改善状況のフォローアップや、ヒヤリハットの評価にリスクアセスメントの考え方を取り入れるなど、ヒヤリハット活動の活性化やこれを通じたリスクの低減・トラブルの防止に取り組んでいる。

表6 平成27年度ヒヤリハット報告件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
豊田	7	15	4	10	15	6	11	11	10	3	1	93
東京	79	55	71	42	57	67	90	47	38	53	96	695
大阪	12	43	38	26	17	13	30	41	18	28	26	292
北海道(当初)	110	88	110	129	86	74	107	94	78	122	82	1,080
北海道(増設)	67	68	67	68	68	67	67	66	68	68	67	741

※大阪 PCB 処理事業所と北海道 PCB 処理事業所はヒヤリハットとキガカリを分けて集計しているが、上記は合計した数字。

北海道 PCB 処理事業所は仮想キガカリ（当初、増設）を含んでいる。

※北九州 PCB 処理事業所では、ヒヤリハット報告とは別に、安全衛生リスクアセスメント活動に取り組んでおり、本年度は約 541 件のリスクが抽出され改善運動に取り組んでいる。

6. 操業に関わる情報公開

(1) 情報公開ルームの見学等

各 PCB 処理事業所の平成 27 年度 2 月末までの施設見学者数は、国内外の見学者を合わせて、表 7 のとおり。平成 27 年度中の施設見学者数は表 8 の通り。

表 7 平成 16 年度から平成 27 年度 2 月末までの見学者数（人）

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27 (-2月)
北九州	1,905	2,583	2,165	1,427	1,660	1,557	1,200	835	979	664	1,227	813
豊田	—	955	808	814	715	472	362	374	391	297	217	382
東京	—	1,048	1,310	1,938	1,669	1,578	1,292	596	823	1,235	665	804
大阪	—	—	2,129	3,333	1,100	650	624	482	501	465	518	274
北海道	—	—	—	990	2,510	1,320	1,102	817	908	1,590	1,356	1,104

表 8 平成 27 年度の見学者数（人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
北九州	27	38	92	31	105	94	119	110	43	73	81	813
豊田	19	29	45	5	46	89	37	55	15	5	37	382
東京	26	60	51	73	74	37	124	111	81	77	90	804
大阪	9	60	0	39	43	35	23	35	6	17	7	274
北海道	196	94	88	66	188	70	34	308	41	0	19	1,104

(2) 環境報告書の作成

毎年、前年度分の環境報告書を 9 月に 2,000 部程度作成し、自治体等へ配布しているほか、ホームページにも掲載している。

(3) ホームページによる情報提供

JESCO のホームページにおいて、表 9 のとおり、上記環境報告書や各事業所が発行する PCB 処理事業所便りのほか、処理実績や環境モニタリング結果などを掲載し、タイムリーな情報提供に努めている。なお、23 年 4 月より、廃棄物処理法の改正に伴い義務づけられている維持管理情報の公開も行っている。

表9 ホームページにおける操業状況等の公表状況

項目	内容・URL	更新等
JESCO からの 主なお知らせ	(重要なお知らせ) http://www.jesconet.co.jp/footer/information.html	随時
事業所便り 豊田 東京 大阪 北海道	(受入実績、委員会開催状況、定期点検) http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/about.html http://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/about.html http://www.jesconet.co.jp/facility/osaka/about.html http://www.jesconet.co.jp/facility/hokkaido/about.html	月1回 ～ 年2回 程度
維持管理情報 北九州 豊田 東京 大阪 北海道	(廃棄物処理法に基づく公表事項) http://www.jesconet.co.jp/facility/kitakyushu/report.html http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/report.html http://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/report.html http://www.jesconet.co.jp/facility/osaka/report.html http://www.jesconet.co.jp/facility/hokkaido/report.html	月1回
環境測定結果 北九州 豊田 東京 大阪 北海道	(モニタリング計画に基づく排出源、周辺環境の測定結果) http://www.jesconet.co.jp/facility/kitakyushu/environment/monitoring.html http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/environment/monitoring.html http://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/environment/monitoring.html http://www.jesconet.co.jp/facility/osaka/environment/monitoring.html http://www.jesconet.co.jp/facility/hokkaido/environment/monitoring.html	年1回
処理実績	(各 PCB 処理事業所の処理台数、PCB 分解量、進捗率等) http://www.jesconet.co.jp/business/result/index.html	年1回
環境報告書	http://www.jesconet.co.jp/company/environment/index.html	年1回

7. 監視委員会等

(1) 北九州市 PCB 処理監視会議 (北九州市主催)

第34回(27年7月29日)	操業状況、北九州市受入条件の履行に係る国の取組、安全かつ早期の処理完了に向けた市の取組
第35回(28年1月21日)	操業状況、豊田 PCB 処理事業所視察実施結果、ベンゼン濃度の協定値超過、今後の安全かつ早期の処理完了に向けた取組

(2) 豊田市 PCB 処理安全監視委員会 (豊田市主催)

平成27年度第1回 (27年7月7日)	漏洩防止活動の促進、操業状況報告、豊田 PCB 処理事業における豊田市の対応
平成27年度第2回 (27年11月13日)	東海旅客鉄道(株)浜松工場視察
平成28年度第3回 (28年1月23日)	操業状況、豊田 PCB 処理事業における豊田市の対応、PCB 廃棄物の期限内処理の早期達成に向けた追加的方策について

(3) 東京 PCB 廃棄物処理事業環境安全委員会 (JESCO 主催)

第 34 回 (27 年 10 月 8 日)	操業状況、東京 PCB 処理事業所における取り組み意識等に関するアンケート、廃粉末活性炭処理設備試運転結果、リン化合物含有 PCB 油の前処理検討調査中間結果、水熱分解設備の腐食防止の追加対策案等
第 35 回 (28 年 3 月 14 日)	操業状況、長期処理計画、長期保全計画の実施状況、取組意識等に関するアンケート結果 等

(4) 大阪 PCB 廃棄物処理事業監視部会 (近畿ブロック産業廃棄物処理対策推進協議会主催)

第 5 回 (27 年 9 月 15 日)	事業の進捗、環境モニタリング結果、PCB 廃棄物処理基本計画に基づく取組の進捗状況と今後の課題 等
第 6 回 (28 年 3 月 3 日)	事業の進捗、環境モニタリング結果、PCB 廃棄物の期限内処理の早期達成に向けた追加的方策 等

(5) 北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議 (北海道及び室蘭市主催)

第 35 回 (27 年 8 月 6 日)	事業の進捗状況 等
第 36 回 (27 年 10 月 28 日)	事業の進捗状況、期限内処理の早期達成に向けた追加的方策について 等
第 37 回 (28 年 2 月 15 日)	事業の進捗状況、北九州 PCB 処理監視会議委員との交流、期限内処理の早期達成に向けた追加的方策について 等

8. その他

(1) 内部技術評価

当社では、PCB 廃棄物処理事業の円滑な実施のため、PCB 廃棄物の安全、確実な処理及び事故等の未然防止の観点から、処理施設の健全性及び運転・操業の確実性の確保と、これらの維持向上を図るために、各 PCB 処理事業所を対象として、定期的に内部技術評価を実施することとしている。

平成 27 年度は、

- ・長期処理計画及び年度の処理計画に基づき、計画通りに処理が進んでいるか。また、長期保全計画に基づき、施設の処理性能が維持されているか
- ・処理完了に向けて、処理手間物を含む未処理品の現地確認は計画通りに進んでいるか。また、処理手間物を含む未処理品の処理計画はどのようになっているか
- ・環境保全、作業安全性の取組みが適切に行われているか
- ・トラブル発生抑制に向けて、原因の究明と対策の検討・実施が適切に行われているか。また、他 PCB 処理事業所のトラブル事例を含めて、外部トラブル事例の情報共有と水平展開が適切に行われているか

に重点を置いて評価を行った。

評価体制としては、本社 PCB 処理事業部員に、評価対象 PCB 処理事業所以外からの事業所員を加え、評価員とした。事業所毎の評価結果を以下に示す。

- ① 北九州 PCB 処理事業所（平成 28 年 2 月：第 11 回内部技術評価）
第 11 回内部技術評価を実施した結果、法改正に伴う空調設備の点検整備や化学物質の SDS 等の管理状況に関する指摘事項が 1 件あった。処理施設の操業状況としては、早期処理、計画的処理の推進に向けて、設備や操業方法の改善、省エネ・省資源、運転廃棄物や処理困難物の処理、長期保全計画、設備トラブル削減等に取り組んでいたが、排気中ベンゼンの協定値超過事案が発生しこれに係わる北九州市等の指導事項に対し、改善を実施している(11 月 24 日より自主操業停止)。
- ② 豊田 PCB 処理事業所（平成 27 年 7 月：第 9 回内部技術評価）
第 9 回内部技術評価を実施した結果、指摘事項はなく、処理施設の操業状況としては、早期処理、計画的処理の推進に向けて、漏洩トラブルの再発防止対策の実施、設備改善、操業方法改善、コスト削減等への継続的な取り組みを含めて、着実に操業されていることが確認された。
- ③ 東京 PCB 処理事業所（平成 27 年 10 月：第 7 回内部技術評価）
第 7 回内部技術評価を実施した結果、指摘事項はなく、処理施設の操業状況としては、概ね順調であった。早期処理、計画的処理の推進に向けて、設備や操業方法の改善、省エネ・省資源、運転廃棄物や処理困難物の処理、長期保全計画、設備トラブル削減等に取り組んでいることが確認された。
- ④ 大阪 PCB 処理事業所（平成 28 年 11 月：第 9 回内部技術評価）
第 9 回内部技術評価を実施した結果、指摘事項はなかった。処理施設の操業状況としては、長期処理計画、長期設備保全計画に基づき処理完了に向けて、設備改善、操業方法改善、コスト削減等への取り組みを実施し、着実に操業していることが確認された。
- ⑤ 北海道 PCB 処理事業所（平成 28 年 2 月：第 8 回内部技術評価）
第 8 回内部技術評価を実施した結果、指摘事項はなかった。処理施設の操業状況としては、順調であった。早期処理、計画的処理の推進に向けて、設備や操業方法の改善、省エネ・省資源、運転廃棄物や処理困難物の処理、長期保全計画、設備トラブル削減等に取り組んでいることが確認された。

(2) ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証取得・運用状況

当社では、地元自治体との環境保全協定等に基づき、平成 18 年以降、各 PCB 処理事業所で順次認証を取得し、第三者の定期的なチェックを受けて信頼と安心の向上に努めてきた。平成 22 年度から、全社システムの試行を開始し、さらに、平成 23 年度期首から、全社環境マネジメントシステムを本格運用し本社と全 PCB 処理事業所を含めた JESCO 全社統合認証を目指した活動を実施してきた結果、平成 24 年 2 月 10 日付で、ISO14001 の全社統合認証の登録を受けた。

全社統合認証では、各 PCB 処理事業所と本社間の連絡・報告・指示等のコミュニケーション、及び全社的な活動との整合が重点的にチェックされることを踏まえ、全社として環境マネジメントシステムの一層の継続的改善を進めることにより環境の保全と安全の確保を図り、さらに安全で効率的に PCB 処理事業を推進し、地域住民の皆様をはじめとする関係者の皆様の信頼の向上に努めていくこととする。

なお、全社統合認証では、本社は毎年受審する一方、各 PCB 処理事業所に出向いての現地審査は抜き取りとなる。平成 27 年度は定期審査の中で、北九州及び北海道の 2 PCB 処理事業所が、現地審査を受審した。

① 北九州 PCB 処理事業

平成 18 年 9 月 15 日に、当社で初めて ISO14001 認証取得し、平成 22 年 7 月の定期審査に合わせ、北九州第 2 期施設を含めた拡大審査を受け認証取得している。平成 27 年度は、12 月 14 日、15 日全社統合認証定期審査の中で現地審査を受審した。不適合は無かったが①「順守評価」②「不適合並びに是正処置及び予防処置」について、それぞれ 1 件のリマーク事項があった。これらのリマーク事項に対し、北九州 PCB 処理事業所では、改善対策を本社と連携して進めている。

② 豊田 PCB 処理事業

豊田 PCB 処理事業所では、平成 20 年 11 月 14 日付けで ISO14001 の認証を取得している。平成 27 年度は、事業所への現地審査は無かった。

③ 東京 PCB 処理事業

東京 PCB 処理事業所では、平成 22 年 5 月に ISO14001 の認証取得をしている。平成 27 年度は、事業所への現地審査は無かった。

④ 大阪 PCB 処理事業

大阪 PCB 処理事業所では、平成 22 年 1 月に ISO14001 の認証取得をしている。平成 27 年度は、事業所への現地審査は無かった。

⑤ 北海道 PCB 処理事業

北海道 PCB 処理事業所では、平成 23 年 3 月に ISO14001 の認証取得をしている。平成 27 年度は、12 月 10 日、11 日全社統合認証定期審査の中で現地審査を受審した。不適合等の指摘事項は無かった。

(3) 運転廃棄物等の処理に関する取組

JESCO 各 PCB 処理事業所では、昨年度に引き続き PCB 処理に伴い発生する廃活性炭・防護具類や、機器・配管等の内部洗浄に使用したアルカリ廃液、トランス・コンデンサの内部構成部材である紙・木等の含浸物について、無害化処理認定施設を活用して処理を進めている他、今年度より PCB 濃度が 5,000mg/kg を超える運転廃棄物について、事業所間移動を開始し、処理推進を図っている。

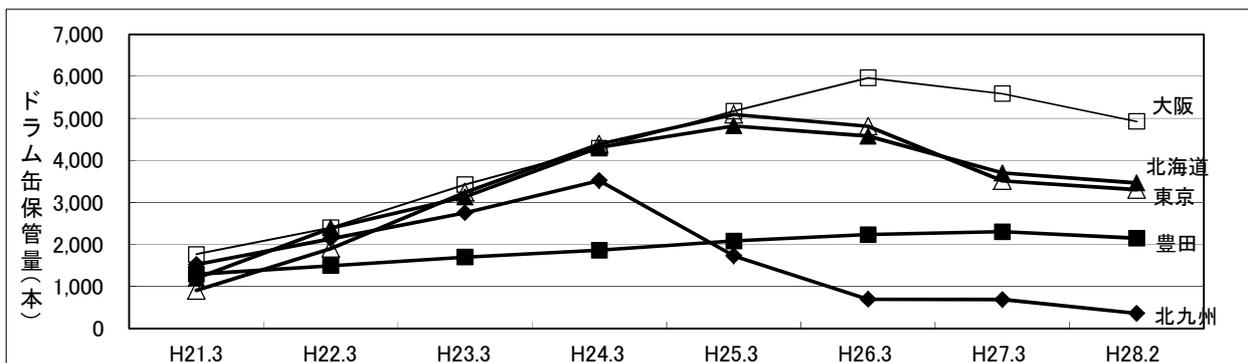
① 払出しの状況

- ・昨年度に引き続き、全ての PCB 処理事業所で払出しを継続している。
- ・大阪、豊田各 PCB 処理事業所では、今年度より新たにそれぞれ防護具類、含浸物の無害化処理認定施設への払出を開始した。
- ・今年度より東京、北九州各 PCB 処理事業所で事業所間移動による運転廃棄物の処理を開始した。

事業所	払出開始時期	払出物	備考
北九州	平成 25 年 2 月	アルカリ廃液、防護具類、廃粉末活性炭	今年度より東京 PCB 処理事業所での廃粉末活性炭の処理を開始した。また、大阪、豊田 PCB 処理事業所の防護具類の処理を開始した。
北海道	平成 25 年 2 月	防護具類、廃活性炭、含浸物	
大阪	平成 25 年 3 月	アルカリ廃液、防護具類、低沸油、廃活性炭、廃粉末活性炭	今年度より無害化処理認定施設及び北九州 PCB 処理施設での防護具類、東京 PCB 処理事業所での廃粉末活性炭の処理を開始した。
豊田	平成 25 年 8 月	防護具類、廃活性炭、含浸物	今年度より無害化処理施設での含浸物、また事業所間移動による防護具類の処理を開始した。
東京	平成 25 年 8 月	防護具類、廃活性炭、含浸物	今年度より北九州、大阪 PCB 処理事業所の廃粉末活性炭の処理を開始した。

② 運転廃棄物等の保管状況

運転廃棄物等の保管状況は、平成 28 年 2 月末現在で約 1 万 4 千本（昨年度末は約 1 万 6 千本）。となっており、無害化処理認定施設への払出し、今年度より開始した事業所間移動により、増加が抑えられている状況にある。



③-1 これまでの払出し状況（無害化処理認定施設）（ドラム缶換算本数、～H28年2月）

事業所 品目 年度	北九州		豊田		東京		大阪		北海道		計 (本)
	～ H26	H27 (-2月)									
防護具類	243	479	932	336	1,917	409	---	528	390	501	5,735
含浸物	---	---	---	13	3,950	2,400	---	---	267	0	6,630
廃活性炭	---	---	132	52	2,771	1,906	1,007	288	880	48	7,084
アルカリ廃液	519	190	---	---	---	---	363	177	---	---	1,249
低沸油	---	---	---	---	---	---	129	99	---	---	228
計 (本)	762	669	1,064	401	8,638	4,715	1,499	1,092	1,537	549	20,926
	1,431		1,465		13,353		2,591		2,086		

③-2 これまでの払出し状況（事業所間移動）（ドラム缶換算本数、～H28年2月）

品目 搬出元 搬出先	北九州	大阪		豊田	計 (本)	合計 (本)
		東京	北九州			
廃粉末 活性炭	10	56	0	0	66	122
防護具類	0	0	32	24	56	
計 (本)	10	56	32	24	122	

④ 今後の取組

運転廃棄物等のより一層の処理推進を図るため、引き続き無害化処理認定施設への払出、事業所間移動を実施していく。